



西脇 親 議員
(創政会・加西市民の会)

不登校支援の現状と未来



問 加西市の現状は。

答 市内の不登校児童生徒数は、令和7年度末で小学校が55名、中学校が79名です。小学校は令和2年度以降増加傾向にあり、中学校は多少の増減はあるものの、令和4年度以降、高止まり状態が続いています。全中学校に校内フリースクール、小学校5校に校内サポートルーム、総合教育センターにふれあいホームを開設し、社会的自立に向けて個に応じた支援に努めています。

問 一日のタイムスケジュールは。

答 校内フリースクールでの過ごし方は、生徒本人が決めていきます。支援員は、ありのままの自分を好きになることを基本理念に、選択するのは本人です。評価やジャッジ、判断決定をしないということを共通理解とし、児童生徒の社会的自立に向けた支援を行っています。小学校のサポートルームでも、過ごし方は児童本人が決めていきます。安心して過ごせる居場所、エネルギーを蓄える居場所、社会的自立を目指す場所であることや一日の計画を立てる、人との関わりを学ぶ、自主学習という点は、各校共通です。

問 学校統廃合後の状況は。

答 児童や保護者にとって戸惑いはあったと思いますが、

現在は、行きづらさを感じている児童は減ってきています。新しい出会いや、これまでの人間関係の解消、多様な集団活動による学校の楽しさ、教職員の適切な配置と見守り体制の強化、スクールバス通学による疲労軽減など、多くの理由が考えられますが、不登校児童数は減少しています。

問 不登校の児童生徒の通学方法は。

答 保護者の送迎や自転車での登下校をしています。新中学校には、フリースクール用の送迎駐車場や自転車置き場を用意しています。通学手段については、生徒や家庭の判断に任せたいと考えています。

■その他の質問項目

- ・ 職員の育成について
- ・ 公平な幼児教育とは
- ・ 農業問題について



深田 照明 議員
(加西市民クラブ)

地域道路の危険箇所確認と整備について



問 国道372号線・県市道の危険箇所の確認は。

答 国・県道は加東土木事務所、市道は市が管理しています。危険箇所は日々の道路パトロールと地域の皆様の通報、市ではメール、ライフナビ、公式LINE、職員情報も活用し、多方面からの情報収集を行っています。

歩道植樹帯の整備

問 定期整備状況は。

答 国・県道の歩道植樹帯の剪定は年1回、7月から1月にかけて実施されています。通学

路、交差点、カーブなど優先的に安全確保が必要となる区間は、地元からの要望を踏まえて先行実施する場合もあり、地域の状況に配慮した柔軟な対応が行われています。

問 高さ整備の基準は。

答 以前は植樹の伸びた枝をそろえる程度の剪定もありましたが、近年の高温多雨による枝葉の成長の早さや車両や道路利用者の視認性を考慮して、今年から歩道の植栽は剪定する高さを低くして、55センチから60センチ程度に刈り込みする予定です。

問 完全撤去の方向性は。

答 通学児童等の安全性や車両からの視認性を考慮し、通学路指定区間や交差点部などで歩道植樹帯の完全撤去を実施していく方向性にあります。なお先日、

事故があった国道372号線の上宮木町の歩道植樹帯は、令和8年度中に撤去が予定されています。

市道繁昌玉野線の整備

問 拡幅整備の見込みは。

答 国道372号から市道玉丘常吉線に至る当該道路は延長が1,900メートルと非常に長く、多大な工事費を要する見込みで、市の単独事業として整備するのは困難です。国庫補助事業を活用し実施を検討しますが、早期の整備は難しいと考えています。

問 路肩の白線整備は。

答 安全確保のため、予算等の調整を図りながら、区画線の引き直しを進めます。

■その他の質問項目

- ・ 加西市総合運動防災公園事業